

思案橋調圧水槽の役割

筑後川の水を取水する揚水機場のポンプが運転中に急停止した場合、導水路（管水路）内に負圧※が発生して破損に繋がる恐れがあるため、導水路（管水路）内が負圧にならないよう、ポンプの急停止時の水圧を調整する負圧防止対策施設である。

通常の導水時は、地下に設置している逆支弁により導水路と調圧水槽を遮断しており、負圧が発生した場合に逆支弁が作動して調圧水槽内の水が導水路内に補充される仕組みである。

※「勢いのある水」（ポンプが停止しても流れようとする水）と「勢いのない水」（ポンプが停止したことで流れが停まる水）が離れて水圧が急激に低下する現象。

平成30年4月 福岡導水管理室 K



思案橋調圧水槽



調圧水槽内部
(点検の空水時、通常は満水)



地下に設置している逆支弁